

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つぼみケア			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各職員が、専門性を活かしながら連携し、支援をおこなっています。	訪問リハビリ時の様子やつぼみケアでの状態等の情報を共有して支援の検証・改善に努めています。 併用しているこども園を見学したり、生活状況を聞いたりして現時点の情報(家族も含む)を共有しています。	病院リハビリの見学を行い、情報共有を行います。
2	同建屋の保育園との併行利用ができる体制を整えています。 また、児童発達支援が終了しても、引き続き放課後等デイサービスや短期入所が利用できる体制になっています。	隣接している短期入所の利用に繋げて情報共有しています。	保育園や短期入所に慣れるため、ハロウィンパーティやクリスマス会、節分等の行事に参加して交流しています。
3	看護職員を配置して医療的ケアを実施し、重症心身障がい児や医療的ケア児を受け入れることができます。他職員も協力体制が取れるようにしています。	看護職員以外の職員（保育士や児童指導員等）も医療的ケアに対応できるよう、喀痰吸引等(基本)研修に参加しています。	医療的ケアに対応できるよう、喀痰吸引等(実地)研修に参加して、実技の修得を目指しています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建屋の二階部分に事業所があるため、普段はエレベーターで昇降していますが、災害時は限られた人数での避難になるため、難しさを感じます。	災害時には、エレベーターが使用不可になると考えられるため、非常階段からの避難となります。	あらゆる場面を設定して、避難訓練等実施しています。自事業所だけでなく協力体制を構築して、避難する必要があります。同建屋や隣接する建屋との連携が必要です。
2	毎日通所することができません（受給量が10～15日のため）。全員での外出や交流等に制限があります。	医療的ケアや入浴、活動プログラム等の状況や体調により、同時刻の外出や地域交流が難しいことが多いです。	体調不良等で休んだ場合は、可能な限り振替利用してもらいます。活動内容を振り返り、改善等加えながら活動の幅をひろげています。
3	保護者勉強会やきょうだい同士の交流等、家族支援の日程調整が難しいです。	職員数の関係で、開所日の会の開催や交流等が難しいです。	児童発達支援センターや他事業所等と合同で開催できるような機会を模索していきたいです。